

令和4年度第2回大野城市総合教育会議会議録

日時：令和4年11月14日（月） 14時00分～15時00分

場所：本館4階 全員協議会室

○経営戦略課長

皆さん、こんにちは。

定刻前でございますが、皆様お揃いでございますので、ただいまから、令和4年度第2回大野城市総合教育会議を始めさせていただきます。

私は、本日この会議の進行を務めさせていただきます、経営戦略課長の甲斐と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それではまず、開会に際しまして、議題の確認と会議の公開の可否について確認をさせていただきます。

次第を御覧ください。本日の議題につきましては2点、1点目が、「小学校における環境教育の取組について」、2点目が、「大野城市立中学校における制服の在り方について」の2件となっております。

本日の審議事項につきましては、大野城市総合教育会議運営要領第7条に基づき、非公開とすべき事項がないことから、公開することといたします。

なお、本日の傍聴者につきましては、希望者がいらっしゃいませんでしたので、御報告をさせていただきます。

続きまして、資料の確認をいたします。本日の会議の資料は、事前に配付をしておりました資料と、本日机上に配付しておりますカラーの冊子1部が追加資料となっておりますので、御確認をお願いいたします。

それではまず初めに、井本市長から御挨拶をお願いいたします。

○井本市長

皆さん、こんにちは。

教育委員会、そして学校現場におかれては、コロナ禍ということで、学校運営に多大な御尽力をいただいていることに、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

今回の会議では、環境教育の取組についての事業の報告、そして、大野城市立中学校の制服の在り方についての検討した内容について報告をいたしたいということで、

二つの議題を設けさせていただきました。環境教育を通じて子どもたちは、生物の多様性だけではなく、地球温暖化やSDGs、いわゆる持続可能な開発目標を実現するための取組についても理解を深めることができると考えております。また、中学校の制服については、地球温暖化で子どもの学習環境が変化していることや多様な性の在り方を尊重する社会を推進する観点から、今年度制服検討委員会において、これからの制服の在り方を検討しております。

今回の議題は、現在の社会問題と密接に関わりを持った内容となっております。各事業の報告を踏まえて、より効果的な事業に展開することができるように、この総合教育の会議の場で議論を深めたいと考えております。どうか率直な御意見を賜りますようお願いをいたします。

私からは以上でございます。

○経営戦略課長

ありがとうございました。

それでは続きまして、教育委員会を代表いたしまして伊藤教育長より御挨拶をお願いいたします。

○伊藤教育長

皆様、こんにちは。

今日は議題が2件上がっておりますけれども、秋になって様々なイベントで、小学生、中学生等の意見を聞いたり、あるいは作品を見たりというような機会がかなりたくさんございました。その中で、今日の議題にもあります環境教育に関しても、生徒から多くの意見が、かなり範囲が広く、また奥が深いところに目を向けて考えていると感じる場面がありました。まさに様々な形で教育がされている成果だなというふうに思います。

それから、教育委員会が進めております制服検討委員会でも、生徒から様々な意見をもらいました。その意見の内容についても、本当に自分たちの生活、それから周りの人のこと、それから社会情勢、様々なことをきちんと考えた上で発言をしているとか、自分たちの考えをつくっているなど、そういう意味での公平公正さというのを感じさせていただきました。

そういう中で今進めておりますことについて、教育委員会としても御報告させていただこうと思っております。また、皆様の目から見ていただきまして、いろいろ御意見をいただければありがたいなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○経営戦略課長

ありがとうございました。

それでは、これから議題に入りたいと思います。これからは、この会議を主宰していただきます井本市長に、この会議の議長として進めていただきたいと思います。井本市長、よろしく願いいたします。

○議長（井本市長）

それでは早速ですけれども、次第の2の議題に入ります。

（1）小学校における環境教育の取組についてを議題といたします。所管部から説明をお願いします。

○環境経済部長

皆様、こんにちは。環境経済部長の團野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、小学校における環境教育の取組についての御報告をさせていただきます。報告の内容につきましては2点ございます。

1点目は、令和2年度から共働提案事業で、一般社団法人まほろば自然学校と共働で取り組んでまいりました、小学校における生物多様性に関する環境教育事業での成果について、2点目は、ゼロカーボン政策の一環として、小学4年生の社会科における私たちの暮らしとごみの出前講座の取組についてでございます。

1点目の環境教育は、本市の御笠川や四王寺山、牛頸地区などの水や自然を教材にすることで、児童の生き物の命を大切に思いやふるさと意識の醸成につながっていると考えているところでございます。2点目のごみの出前講座は、ごみ削減の必要性をSDGsの視点からも展開し、児童の環境保全意識の醸成につながっているところでございます。

ただいまから報告をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○循環型社会推進課長

改めまして、こんにちは。本日は、生物多様性の保全に関する環境教育の共働のパートナーである一般社団法人まほろば自然学校の代表も関係者として出席をいたしておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、報告させていただきます。資料1をご覧ください。本日は、小学校における環境教育の取組として、スライドにありますとおり「生物多様性の保全に関する環境教育」と環境出前講座「わたしたちの暮らしとごみ」の2点の取組について報告

させていただきます。

まず、1点目の生物多様性の保全に関する環境教育の取組についてですが、これは令和2年度から、共働提案事業として、一般社団法人まほろば自然学校とともに「しぜん・いきもの環境教育実行委員会」を組織して取り組んできました。

本事業を通じて、児童に生き物の命の大切さを伝え、環境保全について考えるきっかけを提供することで児童の「生きる力」を育成し、自然と共生できる社会を目指して取り組んできました。事業初年度の令和2年度は、コロナ禍の影響で、全校実施に至りませんでした。年々実施依頼は増えている状況です。なお、事業は、各クラス単位で実施していますので、各学年で多い学年は5クラス、少ないところは1学年1クラスとなっています。

授業の概要ですが、各校の校区内にある御笠川や大城の森、牛頸地区や四王寺山などの身近な自然資源を教材に、大野城市にある豊かな自然のなかで共生していることを気付き「ふるさと意識」の醸成につなげています。また、本市は令和3年2月22日に地球温暖化を防ぐために「ゼロカーボンシティ大野城」を宣言しており、環境教育の中でもこのことを伝えています。本事業の講師であるまほろば自然学校の岩熊さんも令和4年度から福岡県地球温暖化防止活動推進員として、授業に臨んでいただいています。

今から授業の様子を一部ですが、動画にてご覧ください。

生き物教育の成果としては、次の事項が挙げられます。先生方へのアンケートのなかで、この授業を先生が実施するとしたら事前準備にどのくらい時間を要するかの問いに対する回答として、多くは3日～5日との回答や、そこまでの対応は難しいとの回答をいただきました。このことから専門の団体が講師をすることで生き物教材の共有化や市の施策意図も展開できていると感じました。令和3年度のアンケート結果は、表のとおりで目標は概ね達成できたと感じています。

共働事業提案制度としては、今年度で終了となります。小学校の現場からは、生物多様性の保全に関する環境教育事業に対する実施要望は、年々増えてきています。共働提案制度審査会からは、概ね好評価をいただきましたが、実施形態については、今後見直しも含めて検討も必要との意見もいただいています。当課として生物多様性の保全は、引き続き取り組むべき環境課題として、団体に主軸を移しながらも継続できるように取り組みたいと考えています。本市が目指すべき「ゼロカーボンシティ大野城」の実現に向けて、環境教育の主軸となる実行委員会を経済的支援企業や環境活動

を行っている団体に拡大していくことで、市民や事業所における啓発活動を広げていけるように新たな枠組作りに注力していきたいと考えています。

次に環境出前講座「わたしたちのくらしとごみ」について、報告させていただきます。これは、小学校4年生社会科の1学期の単元で、10～12コマで展開されている内容です。令和3年度に生物多様性の保全に関する環境教育を踏まえて、小学校すべての先生方に環境教育のアンケートをとった結果、希望があがったことで、全校の全クラスに対して実施したものです。

環境出前講座の取組については、各学校の4年生のクラス担任の先生と協議していく中で、授業の内容をくみ上げていきました。今回の環境出前講座で重視したことは、次の2点です。まず1点目は、児童が、これまで学んできた学習の意見や疑問を聞く中で、なぜごみを減らす必要があるのかに気付いてもらうことでした。その疑問を持たせることで、児童が授業の中で考えていた疑問や意見を多くもらうことができました。

次に、2点目の地球温暖化やSDGsの視点から具体的な事例を提起することで、解決に向けての環境配慮行動の動機付けを行いました。例えば、ごみが燃やされることで発生する二酸化炭素が地球温暖化につながっていること。ペットボトルなどの多くのプラスチックごみが、海の汚染や海の酸性化につながっていること。大野城市の豊かな自然が、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を吸収している大切な役割があることなどです。

環境出前講座のアンケート結果は、概ね理解された結果となりました。また、本市の4年生のSDGsの認識率は、60%になっていることもわかりました。

この環境出前講座では、講座に参加した児童が家に帰って親御さんとごみや環境について話し合い、意識の変容や行動の変化につなげることを成果として考えています。このナッジ効果は、環境省も重要だと提言しています。次年度以降も先生や児童からのアンケートを元に改善を加えながら継続して取り組んでまいります。

以上で報告を終わります。

○議長（井本市長）

それでは、小学校における環境教育の取組についての説明が終わりました。この議題については報告事項でありますけれども、御質問はどうぞ御遠慮なく挙手をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○高野委員

詳細な報告、ありがとうございます。現在、小学校だけでの実施のようですけれども、中学校からこういった専門の行政職の出前講座とか、そういったものをしていただきたいという要望はまだ出てないということですか。

○議長（井本市長）

どうぞ。

○循環型社会推進課長

現在、この部分に関しては小学校に限定しておりますが、実際には中学校でも先日、大和中学校の2年生全員を対象にSDGsに関する講座をやっておりますし、また、大人の団体からもSDGsや地球温暖化とか省エネに関する出前講座の希望が増えてきている現状はございます。

以上です。

○議長（井本市長）

どうぞ。

○高野委員

学習指導要領を読むと、やはり小中学校、全学年、全科目と関連させた環境教育が必要であるということが強調されていますので、ぜひとも専門の立場から環境教育を提供していただければと思います。

ちょっと気になったのは、9ページの環境出前講座の先生方へのアンケートの中で、時間の長さや事前協議の2項目が低いポイントになっているので、その辺はしっかり事前協議をしていただいて、時間の長さ等も調整していただきながら進めていただければと思います。

以上です。

○議長（井本市長）

どうぞ。

○循環型社会推進課長

この部分につきましては、今後、学校のほうとも十分打ち合わせして配慮していきたいと考えております。

以上です。

○議長（井本市長）

ほかに、どうぞ。

○山口委員

大野小学校のランドセルクラブのコーディネーターをしているのですが、ランドセルクラブの高学年と3年生を対象に出前講座をしていただきました。これまで2回来ていただいたのですが、カブトムシを持ってきていただいたりと、1回目と2回目で内容を変えて出前講座をお願いしました。ほかの学校へも数校、行ってらっしゃるのではないかと思いますので、その御報告もよかったらお願いしたいと思います。

○議長（井本市長）

どうぞ。

○循環型社会推進課長

一応ランドセルクラブの出前講座という形で、本年度につきましては、私どもの担当としては3項目、生物多様性、地球温暖化、気候変動の部分の環境教育を提供いたしまして、約16校の教室から希望が出ております。生物多様性につきましては、大野小学校から2授業、つまり2クラス申込みがあり、先日は大利小学校の高学年の部でも、生物多様性の講座を行ったところでございます。

以上です。

○議長（井本市長）

ほかに。どうぞ。

○松本委員

私は恥ずかしながら、SDGsという言葉を知ったのは最近でした。テレビ等でいろいろ放送されているのを見て、やっと理解できました。今、大野城市の市街を見ると、ごみの量が以前と比べて大分少なくなりましたね。いかがですか。

○議長（井本市長）

いかがですか。はい、どうぞ。

○循環型社会推進課長

循環型社会推進課の山本でございます。

ごみの減量というのはうちの課でも重要課題の一つとして捉えております。一時コロナ禍で増えた時期もありますが、今年は若干減っているのではないかという感覚はあります。しかしながら、概ね横ばいの状況だと思っています。

○松本委員

分かりました。たばこの吸い殻が大分少なくなったと感じますが、いかがでしょうか。

○循環型社会推進課長

地域の清掃をされている団体とか、我々も月2回は市役所の周辺を掃除していただき、確かにごみは吸い殻が一番多いですが、いろんな方が地域清掃を通じて随時拾っていただいているのかなと思っています。

○松本委員

分かりました。今後とも引き続きやっていただくと、大野城市が本当にきれいなまちになると思いますので、頑張ってください。

以上です。

○議長（井本市長）

ほかにありますか。どうぞ。

○梶原委員

ここで聞いていいことか分からないのですが、ごみ処理プラントの映像物とかパネルとかを作っている業者の方と話す機会がありまして、その方が言われたのが、「本当は、ペットボトルはごみとして燃やしたほうが燃料代わりになって環境を破壊しない」とか、「サラダ油はごみとして生ごみと一緒に出してもらったほうが環境にはいい」ということでした。事実かについての確認も含めて、そういうこと取扱いについて、大野城ではどうしているのか教えていただきたいのと、小学校でごみの話をするとき、「今、仕分けしてゴミに出してもらっているけど、実際は一緒に燃やしたほうが環境のためにはいいんだよ」ということは教えているのでしょうか。

ほかにも、サラダ油を排水口に捨てる子がいるのですが、そういうことも含めて正しいごみ処理の仕方については子どものときにきちんと教えてもらいたいです。正しい情報を知らないまま生活をする可能性が高いので、そこは小学校とか中学校で教えといてほしいと考えています。

○議長（井本市長）

はい、どうぞ。

○循環型社会推進課長

確かに、ペットボトルというのは高カロリーといいますが、燃料としてはいいのですが、本市としてはやはり分別してリサイクルをしてもらいたいと考えています。今年から循環型社会推進課という名前になりましたが、やはり分別、リサイクルが大事であると考えています。今後は、できる限りプラスチックも分別をしていこうと、検討しているところです。

サラダ油に関しては、確かに側溝とか、そういうところに捨てるのはよくないので、出前講座などでしっかり教えていきたいなと思っています。

以上です。

○梶原委員

本当に正しいのかというところが、私たちでは判断ができないところでして、教えられたとおりに思い込んでやっているところがあるのではないかと思ひまして。本当に環境に良いことであれば、その通りにしますが、適切な情報を提供してもらいたいという思いがありましたので、よろしくお祈いします。

○議長（井本市長）

よろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（井本市長）

それでは、これで小学校における環境教育の取組についての議題を終了いたします。準備がありますので、しばらくお待ちください。どうも御苦勞さまでした。

（説明員交代）

○議長（井本市長）

それでは次に、（2）大野城市立中学校における制服の在り方についてを議題といたします。所管部より説明をお願いします。どうぞ。

○教育支援課長

教育支援課 山崎です。本日は、今年度検討を進めてまいりました、大野城市立中学校の制服のあり方の検討状況について、経過を報告させていただきます。

まず、本件の趣旨でございます。本市の中学校制服について、機能性、経済性、多様性などの観点から、今後の中学校制服のあり方について検討を行ってまいりました。今年度、制服の検討を行うにあたり、4つの事業を行いました。

- ①「児童生徒・保護者・教職員アンケート」
- ②「市民対象ワークショップ」
- ③「中学校制服検討委員会」の年間5回の開催
- ④「中学校生徒会への意見聴取」です。

なお、制服検討委員会の最終開催日は明日、11月15日となっており、明日の会議を持ちまして、検討委員会から最終報告書が提出されることとなっております。

それでは、これまでに行ってまいりました議論の経過について、概要を報告いたし

ます。

まず、「①児童生徒・保護者・教職員アンケート」の結果についてです。「現在通っている（通う予定の）中学校の制服を見直す必要があると思うか。」との問いに対しまして、小学生は約半数、中学生は約6割、保護者は約7割、教職員も約7割が「制服を見直す必要がある」と回答しています。「制服を見直す場合、全面的に見直したが良いか、一部を見直したが良いか」との問いに対しましては、小学生が約7割、中学生は約8割、保護者は約7割、教職員は約5割が「全面的に見直したが良い」と回答しています。「制服を見直した方が良いと思う理由」についての問いに対しましては、小学生は、多いものから「暑さ・寒さ」、「動きやすさ」、「デザイン」と続いています。中学生と保護者は、多いものから「暑さ・寒さ」、「デザイン」、「動きやすさ」、教職員は、「男女別」、「暑さ・寒さ」、「動きやすさ」となっています。「自分の好みで組み合わせを選べることは良いことだと思うか」との問いに対しましては、全ての属性において、9割以上が「そう思う・ややそう思う」と回答しています。「制服を見直す場合、デザインは学校ごとのデザインと、市統一のデザイン、どちらが良いか」との問いに対しましては、小中学生及び保護者の多くが、「学校ごとのデザインが良い」との回答が多くなっています。

続きまして、「②市民ワークショップ」の結果について報告します。市民ワークショップでは、3つのテーマについて話し合いを行いました。

まず、1つ目のテーマですが、「そもそも制服は必要なのか。」というテーマで話し合いを行っております。「制服は必要」と思う人の意見では、「教育の場であり、中学生らしい」という意見や、「家庭での差がでない」、「経済的なメリットがある」、「私服にすると着ているものでいじめにつながる可能性がある」、「統一感がある」などの意見があがりました。また、「制服は不要」と思う人の意見では、「制服で統一されると個性がなくなる」「自分が好きな服を毎日選べる」「制服の価格が高い」「LGBTQの子や親は言い出せない」「感覚過敏の子が制服が着れなくて不登校になる」などの意見がありました。

次に、2つ目のテーマは、「制服を見直す必要があるか。」について話し合いました。「見直しが必要」と思う人の意見では、「男女関係なく選びやすいデザインのものにして欲しい」、「今の制服は暑さ寒さが防げない」、「制服の価格が高いので、安価なものにして欲しい」、「自宅で気軽に洗濯出来るなど、機能性が高いものが良い」などの意見がありました。

3つ目のテーマは、「制服を変えるなら、変えるポイントは何か。」について話し合いました。機能性、経済性、安全性、多様性、デザイン性などについて、様々な意見・要望が寄せられております。

続きまして、③制服検討委員会についてです。制服検討委員会は、学識経験者や小中学生の保護者、教職員、LGBTQ当事者の方を構成メンバーとし、年間5回の開催予定としております。これまで、7月から4回開催しており、明日が第5回目の開催日としております。制服検討委員会では、先ほど説明いたしましたアンケートの結果や、市民ワークショップの結果から、論点を整理し、新制服の考え方について議論を行ってきました。その中で、中学生の生の意見を聞きたいということで、各中学校の生徒会の子どもたちとも意見交換を行いました。中学校生徒会とは2回にわたり意見交換を行いました。中学生たちは、真剣に制服のことについて考えをまとめてくれており、制服検討委員会の委員と真摯に意見交換を行ってくれました。

まず、「制服を見直す必要があると思うか。またその理由」について意見交換を行ったところ、5校中4校は「見直すべき」との回答でしたが、1校は、「見直した方が良いとは思いますが、今の制服は変えたくない」との意見でした。「変えたくない」と答えたのは御陵中の生徒会だったのですが、その理由として、御陵中の生徒は、今の制服がとても好きで、制服が好きという思いが愛校心につながるとの意見でした。また、「制服を市である程度統一するとしたら、学校らしさを出すにはどうしたら良いか」との問いに対しましては、「リボンやネクタイの色を変えて学校の独自性を出す」という意見が多く出されました。また、制服を市で統一することによって、「市内の5中学校が、みんな1つになっている、つながっている状態を感じやすいのではないか。みんな大野城市民なので、制服を統一することにより、一体感が出て、大野城市らしさが出せるのではないか」という、郷土愛溢れる意見に、検討委員会委員や事務局一同、感銘を受けました。

2回目の意見交換会では、中に着るシャツについてと、制服の形を男女兼用にすることについて意見交換を行いました。まず、「シャツやポロシャツを市販の物も可とすることと、シャツとポロシャツを両方選べるようにすることについてどう思うか」を聞きました。市販の物も可とすることについては、おおむね肯定的でした。また、シャツとポロシャツを両方選べることにするというのも、気温や好みに合わせて選べるということで、肯定的でした。「制服の形をブレザータイプにするとして、上着やスラックスの形を男女兼用とすることについてどう思うか。」との問いに対しましては、

男女兼用というより、体型に応じた形を選べるようにしてはどうかという意見が多く出されました。LGBTの人たちが、性別に関係なく、悩まずに選べるということも大事だという意見も出されました。以上のような議論を経て、制服検討委員会では、中間報告として論点整理を行いました。

まず、制服の必要性につきましては、制服は、学校への帰属意識を高めるためにも必要だが、一定のルールの中で、生徒自身が選択できるような柔軟性も必要だと考えました。次に、制服を変える必要があるかという点につきましては、多様性や気候変動の対応を考えますと、既存の制服を変える必要があると考えました。次に、制服を変えるなら、変えるポイントは何かということで、「機能性」、「経済性」、「安全性」、「多様性」、「デザイン」等の視点ごとに、これまで出された意見や要望を取り入れていくことにしました。次に、制服を部分的に見直すのか、全面的に見直すのかという点につきましては、全面的に見直す必要があると考えました。最後に、制服の価格と機能性という点につきましては、できるだけ価格を抑えつつも、最新の機能を取り入れた制服にしたいと考えました。また、今あるものを長く着るという発想から、リユースの仕組みについても整えていこう必要があると考えたところです。そして、明日の最終報告に向けた方針案として、第4回目の検討委員会で出した方向性についてです。制服検討委員会として大事にしたい、基本コンセプトは、「子ども一人ひとりの個性を大事にする」ということです。

この考え方に基づき、方針案を検討しました。まず、現在の制服につきましては、市内5中学校とともに見直しを行う必要があると考えました。次に、制服の型につきましては、ブレザータイプ（上着はブレザー、下はスラックスかスカート）を基本とし、性別に関わりなくスラックスとスカートを选べるようにする必要があると考えました。ブレザーとスラックス・スカートの型は市内5中学校で統一し、市内全域でリユースできるようにするとともに、中に着るシャツやポロシャツの色などについては、学校それぞれの意向を反映させることができるように、学校で検討し、決定することが望ましいと考えました。最後に、シャツやポロシャツなど、制服の中に着るものについては、学校指定ではなく、市販の物でも可能とすることを視野に入れていきます。これらの方針案を踏まえ、最終報告書を完成させることとしております。

制服検討委員会において最終報告書が取りまとめられた後の流れですが、11月25日の定例教育委員会において、大野城市教育委員会としての方針決定を行い、11月29日の市校長会において結果報告を行うこととしております。その後、12月議会定例会の

福祉教育委員会において、市教育委員会としての方針を報告することとしております。各中学校においては、市教育委員会の方針を受け、新制服を導入するかどうかの最終決定を年度内に行っていただくこととしております。

各中学校において、新制服を導入すると決定された場合の、最短スケジュールについてです。最短では、令和6年度新入生（現在の小学5年生）から新制服導入となります。令和4年度の年度末までには制服デザインを検討、決定したいと考えております。その後、令和5年度中に仕様案を固め、制服販売店を決定し、令和6年1月頃には採寸を行えるように進めていきたいと考えております。そして、令和6年度新入生から新制服導入というスケジュールで進めていく予定です。

以上で説明を終わります。

○議長（井本市長）

それでは、ただいまの大野城市立中学校における制服の在り方について、これも報告となっておりますけれども、どうぞ御質問がありましたら、遠慮なくお願いいたします。

教育委員会が25日にあるということで、少しスケジュールがタイトなような感じがします。結論を急いでいるんですかね。キャッチボールがあまりできないという感じがするんだけど。ボール投げて、変化球が返ってきたり、いろいろするじゃないですか。そういうときに、また返して、やり取りをする期間があるのかなという。ゴールを先に決めちゃうと大変じゃないかなという感じがするけど、どうですか。

○教育支援課長

ちょっとスケジュール的に少し遅れてタイトになってしまったのですが、随時教育委員会のほうには御相談差し上げながら審議を進めてきたところでございます。

○議長（井本市長）

もう少し具体的に、何を教育委員会に相談するのか。

○教育支援課長

一応制服検討委員会での議論の進捗状況を随時報告させていただきまして、その時点での御意見等をお伺いさせていただいております。

○議長（井本市長）

ということは、自信ありということですか。

○教育支援課長

はい。議論は大分尽くしておりますので、中学生の意見を最大限取り入れられるように配慮をしておるところです。

○議長（井本市長）

私のところにはその都度報告は上がってきていますので、いい展開だなと思いながら記録を読ませていただいております。

どうぞ、御質問がありましたら。どうぞ。

○高木委員

教育委員会があるたびに検討委員会の報告を受けて、私たちも意見を述べておりますので改めてということはございません。教育委員もそれぞれ意見を述べられて、大いに反映しておりますし、こういう検討委員会という形で、民主的に進んだということに関してはとても素晴らしいことだなとそう思っております。

以上です。

○議長（井本市長）

よろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（井本市長）

新しい制服の検討については、生徒の意見も聞きながら新しい展開方法、プロセスを使って進めておりますので、責任をもって確実に実現していかなければなりません。子どもたち、保護者、学校も見ているわけですから。ゴールが令和6年4月からということであれば、それにきちんと間に合うようにやってほしいなというように思います。お願いしておきます。

それでは、この問題についての議論は終了をさせていただきます。どうもありがとうございました。お疲れさまです。

それでは、次第のその他に入ります。何かありますか。山口委員。

○山口委員

先週、自分が感動したことが二つあったので、ちょっとこの場で共有させていただきたいと思います。

一つは、私はランドセルクラブのコーディネーターをしているのですが、大野小学校の子どもたちに、観劇の時間をつくらせていただきました。教育振興課で予算を取っていただき、今年度それが実現いたしました。低学年の1・2年生が、「風の子九州」

という地元の劇団の60分ぐらいの演目を観劇しました。

普段あまり落ち着きがない子どもたちも、すごく目をきらきらさせて見ていて、その様子を見た大人たちは、本当にこれを届けられることができていると良かったなど実感しました。やはり、劇や音楽といった芸術に触れる時間というのは、子どもたちの心の育ちというか、栄養になるのではないかと考えております。今度、高木委員にもコンサートをさせていただくのですが、それもととても楽しみにしております。

学校によって差はあるかとは思いますが、コロナが理由かは分かりませんが、授業の時間が優先されて、なかなか学校で観劇をするとか、音楽のコンサートを聴くという時間をもつことが難しくなっています。すぐ答えとか数字で測れるものではないですが、芸術に触れることはとてもいい時間だと思います。

大野城市は今年市制施行50周年で、色々なお祭りとかが実施されています。コロナ禍でずっと閉じ込められた市民の心が開放された感じで、すごく元気をもらえる出来事が、この夏、秋と続き、市としてはすごい活気があると思います。学校のほうは、まだそういうところまでちょっと踏み込めていないように思います。コロナが心配だとか、準備期間が足りなれないとか、いろんな理由があると思いますが、来年度は予算や準備の時間も割いていただけたらと強く思いました。

もう一つは、先週土曜日、御陵中で40周年の夢講座というイベントに私も参加させていただきました。御陵中の校長先生が、2年前ぐらいからコロナ禍で内々になっている生徒たちに夢を見せてあげたいという思いから、いろんな外部講師の方をお呼びして、生徒たちに夢を持つ大切さや、希望を持てるような話をさせていただいているということです。私もこの前の土曜日に、植松電機の社長、植松努さんという方の講演を聴かせていただきました。大人としての責任とか、いろんなことを感じたのと、子どもたちにも夢を持ってもらえるような、とてもいいお話が聴けました。御陵中ではそういう取組を2年前からしていたことを知って、素晴らしい校長先生だと思いました。他にもそういう活動をされている学校はたくさんあると思いますが、その二つの出来事が、先週私の中ではとても感動的だったので、この場で共有させていただければと思って御紹介させていただきました。

○議長（井本市長）

ありがとうございました。予算については答えられませんが、新しいチャレンジをすると新しいリアクションがあるので、とてもいいことですね。失敗することもあるかもしれませんが、やってみないと分からないので。ランドセルクラブも一生懸命

頑張っていて取り組んでいますので、みんなで協力してもらえればありがたいなと思っています。

御陵中の先生については、教育長からお伝えをしてもらいます。一層やる気が出てこられると思います。そのような取組が、他校の先生方に横に広がるといいですね。

その他の項目です。何かありますか。いいですか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（井本市長）

それでは、以上をもちまして本日の議題を終わらせていただきます。

事務局に進行を戻します。議長としての進行役を終わらせていただきます。お礼を申し上げます。御協力ありがとうございました。

○経営戦略課長

井本市長、教育委員の皆様、御審議ありがとうございました。

それでは最後に、第2回大野城市総合教育会議の閉会に当たりまして、井本市長より総括をお願いいたします。

○井本市長

どうもお疲れ様でした。コロナの状況がその都度変化してきており、感染者数が今は急勾配で山になっているな、少し角度が上がるのではないかという心配をしております。コロナとインフルエンザが一緒に来たときに、地域も、特に大事な子どもたちがいる学校の対応はとて難しくなると思います。2学期が終わりがけになり、年末にやらなければならないことがある。お正月に向けて、あるいは正月にやらなければならないこともある。教育委員の皆さんには大変御苦勞をおかけしますが、どうか学校全体の運営について、さらに御支援賜りますようお願いを申し上げたいと思います。

また、総合教育会議という場を設けておりますので、委員の皆様も大野城市全体の問題についても何かお気づきの点がありましたら、事前に事務局のほうにお申出をいただきますと、議題に上げたり、事前にお答えをしたりすることができるだろうと思っております。子どもたちのために、そして地域を次の時代につなぐために、共に頑張らしましょう。今日はどうもありがとうございました。終わらせていただきます。

○経営戦略課長

それでは、これもちまして会議の全行程を終了いたします。ありがとうございました。